

【実践報告 1】

—児童の実態に即したエクササイズの改良実践を通して—

1 対象集団の状況

明治40年1月1日に開校されて以来、今年度で104周年を迎える歴史と伝統のある学校である。校名古屋市・豊田市のベッドタウンとして新興住宅やマンションも増え、ここ10年児童数は増加傾向にあったが、現在は落ち着きつつある。平成22年9月1日現在、児童数519名、19学級（うち、特別支援学級2学級）で町内においても平均的な規模の学校といえる。保護者の教育に対する意識は、学習参観や学校行事等への参加率が高いことから、学校教育に高い関心をもっていることがうかがわれる。

児童は、全体的に明るく素直で元気な反面、やや落ち着きがない面もある。学習面については、基礎・基本の定着に課題がみられる。しかしながら、児童質問紙では、「住んでいる地域の行事に参加している」「住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」と回答した児童が非常に多い。また、「家でテストで間違えたところを勉強している」「学校で好きな授業がある」の回答率が高く、温かい地域に見守られながら、学習に楽しさを感じつつ学習に前向きに取り組んでいる姿が浮かびあがってくる。平成21年度入学の1年生については、保護者・児童ともに入学初日から落ち着きがみられた。経験年数豊富な学年主任の「これまで、何回も1年生を担当してきているが、こんなに落ち着いた1年生は稀である」という言葉からも、その様子がうかがわれる。

平成22年度入学の1年生は、事前の幼保小連絡会から、指導が大変な面があるとの聞いた。そのため、介助員、学級改善対応員を1年生に完全配置し、全クラスで学校環境への適応がスムーズにいくように配慮した。

2 実践内容

《平成20年度の実践》

(1) 研究概要の説明（教務主任より）

平成20年7月職員会議にて

(2) グループアプローチについての研修

ア 書籍、インターネット等による教務主任や1年生担任が、個々に研修を進めた。

イ 愛知県総合教育センターより講師を招いて現職教育（全職員）を実施した。

＜平成21年11月13日実施＞

(ア)「新入生の学校環境への適応に関する研究」についての、これまでの経緯と研究の内容についての説明

(イ)「グループ・アプローチとは？」エクササイズ実践を通して伝達講習

【職員の感想】

- 自分たちも楽しめた。手軽にできるエクササイズもあるので、帰りの会等でもすぐに実践していきたい。
- 促進者（ファシリテーター）の盛り上げ方が大切だなと感じた。
- 明日からの教育実践に、すぐに役立てることができる有意義な現職教育となりよかった。

○ 本校がどういう研究に取り組んでいるのか、ようやく理解できた。

ウ 全学年によるグループ・アプローチ実践（各学年の計画による）

＜平成20年度 1年生の実践例＞

- 1 実践日，実践場所 平成21年11月17日（月）～19日（水） 1年生各教室
- 2 実践内容 「進化じゃんけん」「猛獣が来たぞ」
- 3 ファシリテーター 学級担任
- 4 実践の様子

机を下げて，スペースを作った段階から，子どもたちの表情は期待に膨らんでいた。「猛獣が来たぞ」については，保育園での経験者も多く，ファシリテーターが説明する段階から，身振り手振りでまねる児童が多かった。2つのエクササイズを合わせて20分程度の時間であったが，笑い声と笑顔にあふれたひとときとなった。「またやりたい人？」と聞かれ元気よく飛び上がる児童の姿が印象的であった。



【「猛獣が来たぞ」の説明】

5 実践をふり返って

グループ・アプローチの実践をすることで，普段は進んで話をするのが苦手な児童も強制的に人と人との関わりをもつことになり，その関わりの中で結構楽しそうに過ごしている姿が見られる。その姿からは，グループ・アプローチの繰り返しにより，スムーズな環境適応を促すことになるのではと予測できる。ただ，環境適応がいかにスムーズにいくようになったかを，どんな方法ではかるのか？1年生の能力を考えると心配である。

エ 平成21年度年間計画の作成

(ア) 保育園訪問（園で実践しているエクササイズのリサーチ）

A保育園とB保育園合わせて，平成21年度の1年生は40名にのぼる。小学校入学後，より自然な形で，エクササイズに入ることができるように園で実践している内容や方法を教えてもらい，配慮の必要な児童についての情報を得た。

＜A 保育園＞

わらべ歌，じゃんけん列車
たんじょう日♪ ボール運びゲーム

＜B 保育園＞

トランプ，オセロ。鬼遊び（増やし鬼，帽子とり，タカ鬼，こおり鬼）
「あの橋がおちるまえに（全員）」（通りゃんせ）「ゴキブリのおさんぽ（2人組）」
猛獣が来たぞ じゃんけん列車 なまけんぼうのペーター等

【二つの園に共通の留意点】

- 無理に参加はさせない。（「見ていていいよ」）
- ルールがわかってきたら参加させる。
- 見ている間に個別に声かけをする。

(イ) 書籍，総合教育センター資料による検索

(ウ) 平成21年3月校内計画完成

(エ) 平成21年4月第1学年実践計画完成

《平成21年度の実践》

(1) 実践のポイント

1年生の小学校生活への適応がスムーズに行えるかどうかは、1学期の過ごし方が大きな比重を占める。そこで、環境適応を促すグループアプローチ実践では、1学期の実践に力を入れ、一方で固定エクササイズを毎月1回実践し、その変容を追跡していく。

(2) 学年の実践計画

月 日	学 年 合 同 で 実 践			各学級で実践
	エクササイズ内容	促進者・観察者	事後・備考	
4月16日	①指定した色の物に触れるゲーム ②ぞうさんのさんぽ あいさつじゃんけん第1回	学年主任 体育館		サイコロトーキング 進化じゃんけん (適度に) ドッジビー
4月20日 ～23日	適応度調査第1回	担 任 教 室	介助員補助 センターへ提出	
5月8日	進化じゃんけん改良版	担 任 教 室	1年2組のみ実践	
6月11日	①かえるジャンプ ②集合ゲームNO, 1 あいさつじゃんけん第2回 【好きな食べ物】	学年主任 体育館	※5月末運動会のため 期間が空いた ふり返り アンケート	
6月22日	じゃんけん列車	3組担任 体育館		
6月29日	おにごっこ (ふえ鬼, 手つなぎ鬼)	2組担任 体育館		
6月30日	おみくじトーキング (サイコロトーキング改良版)	担 任 教 室	1年3組のみ実践	
7月6日	○×ゲーム あいさつじゃんけん第3回 【好きな勉強】	3組担任 体育館	ふり返り アンケート	
7月17日	①1学期のふり返り ②集合ゲームNO, 2 あいさつじゃんけん第4回 【1学期で一番楽しかったこと】	学年主任 2組担任 体育館	ふり返り アンケート	
9月7日	進化じゃんけん(全校) あいさつじゃんけん第5回 【夏休み楽しかったこと】	2組担任 体育館	ふり返り アンケート (人数のみ)	
9月14日	おにごっこ	学年主任 体育館	★以後学習発表会の練習時期へ	
10月 9日 ～16日	適応度調査第2回		介助員補助 センターへ提出	

(3) 実践例《固定エクササイズ（あいさつじゃんけん）》

1 実践日 平成21年 4月16日（木）

2 ファシリテーター 学年主任

3 実践の様子

学年合同体育の終わりに集合。

F「今から少し違ったことをやりますね」

「先生が言った『色のもの』をこの体育館の
中で探して触ってね」

※ 白・赤・黄・黒で実施。



【あいさつじゃんけんの説明】

【集合】 F「ぞうさんのさんぽ」を肩たたきの動作等を入れながら歌う。

さんぽで ぶらぶら ぞうさん てんきがいいので ごきげん
おはなも ぶらぶら ぞうさん なかまをみつけて こんにちは

何回目かに突然「あくしゅ！」と言ってとなりの子と握手をさせる。

F：歌いながら「立って近くの人とあくしゅをしよう」

※ 2～4回練習形式で行う。少しだけ時間を長くしていく。

F「次は、5回目だよ。さあ何人とあくしゅできるかな？」 5 分間！

※ こうして、「あいさつじゃんけん」へと入ることができた。

【整列】 → 【ふり返り活動】

各担任が振り返りカードを持って、1人ずつ聞き取りを行っていく。

（何人とあいさつできたか）

※ ニコチャンマークは、教室へ戻ってから色ぬり。（振り返りカード）

【退場】

担任同士で、退場の順番をじゃんけんを決める。子どもたちは担任に声援をおくる。

ア 実践の様子

前ページに示したとおり、最初のあいさつじゃんけんはファシリテーターの巧みな誘導で「ぞうさんのさんぽ」から、自然に結びつけることができた。それ以後の4回についても、エクササイズと組み合わせて単調にならないように工夫して試みた。以下の2点は、雰囲気盛り上げるために意図的に行った内容である。

- 最初の説明は、ファシリテーター以外の担任2人で必ず、見本を見せる。
- 体育館を退場する際、担任団がじゃんけんをして退場する順番を決めるなどして、じゃんけんに対する関心も高めさせる。

イ 考 察

(ア) 自己申告による5回に渡る振り返りカードの結果から、「あいさつじゃんけん」で1年1組の児童の中で、あいさつをした人数の一覧表である。1回目の時、4人の児童が進んであいさつできなかったと判断していたが、2回目からは全員が「ニコちゃんマーク」に印をつけていることが分かった。全学級で10名（約1割）の児童が同様の結果であったが、5回目の時は1名もいなかった。中には、あいさつしたのが56名など、明らかに不可思議な数字も出てきているが、多くの人とあいさつしたと伝えたかったのだろうと判断した。また、2・3・4回目については簡単な感想を書かせた。下記の感想1に見られるように、「あいさつじゃんけん」をすることで、友達が増えていく喜びを感じているものもあり、固定エクササイズを繰り返すことで、関わりが広がっていることが判断できる。また感想3のように、自分でも進んであいさつができるようになったと感じている児童もいる。

感想1

「あくしゅで あいさつ」 (7) がつ

なんにんの ひとと あいさつできましたか。	8 にん
すすんで あいさつできましたか	☒ ☐
いつもよりいっぱいおともだちとけんけんができたからまたやりたいなまたやるべきはもっとおともだちとできるよ	

感想2

「あくしゅで あいさつ」 (7) がつ

なんにんの ひとと あいさつできましたか。	9 にん
すすんで あいさつできましたか	☒ ☐
またにや。さしあやりたいです。 いっぴわおともだちともいっくみの おともだちとあそびたからうれしかったです。	

感想3

「あくしゅで あいさつ」 (7) がつ

なんにんの ひとと あいさつできましたか。	19 にん
すすんで あいさつできましたか	☒ ☐
さいふいっぴわあいさつができたがたけ いまはあいさつができてるよ。	



【児童の記入した振り返りカード】

【振り返りカードに記入する児童】

(イ) 児童の様子から

固定エクササイズは、他のエクササイズと抱き合わせて行うことが多かったため、他のエクササイズへの期待と関心が高まれば高まるほど、固定エクササイズを「つまらない」と感じる児童が増えてきたことも事実である。3回目くらいから、「次はあいさつじゃんけん…」とファシリテーターが口にすると「えーっ、嫌だ」という児童が出始めた。5回目の振り返り活動で感想を書かせなかったのも、飽きつつあることに目が向いてしまわないようにとの配慮からである。対象が1年生であるから、「えーっ」と言うわりには、いざゲームに入ってしまうと、5分間という制限の中で全員が思い切り走り回り、楽しんでいる。

ただ、新しいエクササイズに目を輝かせている児童の姿を見ると、固定エクササイズの実施方法は一考すべきであると感じた。

《平成22年度の実践》

(1) 実践を進めるにあたっての確認内容及び変更点

ア 実践は1学期を中心に進める。

イ 固定エクササイズは、昨年度の反省を生かし、実施は3回とする。

ウ 担任だけでなく、教務主任がファシリテーターを務める機会を多くし、担任は児童の活動補

助にあたったり、抽出児の追跡にあたったりする。

エ 21年度の実践で有効だったグループアプローチに改良を加え、より児童の興味・関心に沿ったものとする。

(2) 検証方法について

ア 固定エクササイズごとの「ふり返りアンケート」をもとにグループアプローチの有効性を検証する。

イ 各クラス1名の抽出児を挙げ、エクササイズを通して学級への適応の状況を追跡していく。
抽出児決定の条件については下記のとおり。

(ア) 発達障害の診断を受けていない児童

(イ) 幼保小連絡会で、小学校への適応が心配であると指摘のあった児童

(ウ) 学級担任の目からみて、適応が心配される児童（1か月経過した時点で）

(3) 22年度の実施計画

平成22年度計画（21年度の実践を踏襲）

月 日	学 年 合 同 で 実 践			各学級で実践 (定期的に)
	エクササイズ内容	促進者・場所	事後・備考	
4月14日	あいさつじゃんけん第1回	学年主任 体育館	ふり返り アンケート	サイコロトーキング 進化じゃんけん 猛獣狩り 等
4月20日 ～23日	適応度調査第1回	担 任 教 室	介助員補助 センターへ提出	
4月23日	①校歌練習 ②むすんでひらいて ③おもちゃのちゃちゃちゃ ④アブラハムの7人の子 ⑤ジャンケン列車 ⑥集合ゲームNO, 1	1年2組担任 音楽室		
5月29日（土）運動会を予定：5月上旬以降実施しばらくできず。				
6月3日	①集合ゲーム ②誕生日チェーン あいさつじゃんけん第2回 【好きな食べ物】	教務主任 体育館	ふり返り アンケート	
6月11日（金）担任団で協力して、おみくじセット7つ作成。				
6月14日 ～18日	おみくじトーキング （サイコロトーキング改良版）	各担任 教 室	各クラスで実践	
6月24日	①ジャンケン列車 ②猛獣狩りにいこう ③〇×ゲーム	1年3組担任 体育館		
6月28日 ～7月3日	①あいこじゃんけん ②進化ジャンケン ③あなたはだあれ ④せんせいとビンゴ ⑤フルーツバスケット	教務主任 教 室	各クラスで実践	
7月13日	①1学期のふり返り あいさつじゃんけん第3回 【1学期で一番楽しかったこと】	学年主任 体育館	ふり返り アンケート	
7月15日 16日	適応度調査第2回		介助員補助 センターへ提出	

(4) 実践例

＜実践例 1・・・おみくじトーキング＞

1 平成22年度のおみくじトーキングについて（新しく改良したもの）

平成22年度で、新入生の環境適応に関する研究の協力校となって3年目、まとめの年となる。昨年度実践したグループアプローチの中で、サイコロトーキングを児童の興味・関心に即して改良した「おみくじトーキング」（昨年度は3クラス中、1クラスのみで実施）が児童に好評であったので、このグループアプローチを本校の目玉と考えた。本年度は3クラスで実施し、より児童が楽しく取り組める方法を模索していった。

2 改良点について

(1) おみくじ内容の検討

入学後2か月半経過して、児童の興味・関心の実態をもとに担任団におみくじの本数及び内容を再検討してもらった。

【おみくじの概要】

- 外側の袋は、画用紙でつくる。おみくじの棒は割り箸をやすりで削ったもの。
- 1番をひいたら・・・ぼく（わたし）の好きな**あそび**を答えることになる。
- はずれを1本入れ、はずれをひいたら「1・2・3」と数える間、班の仲間からくすぐられる。



【おみくじを作成する担任団】

【21年度版】

- ①本数5本（はずれ1本）
- ②内容（4つ）
くだもの・あそび・べんきょう
おりょうり

【22年度版】

- ①本数6本（はずれ1本）
- ②内容（5つ）
あそび・きゅうしよく・どうぶつ
いろ・てれび

(2) 隊形及び実施の仕方の検討

21年度は全員の机をあわせて実施した。整然とできるが、児童間の距離がありスキップをはかりにくいなどの課題もあった。そこで今年度は、座り方の工夫を考えると、より抵抗の少ないくすぐり方も検討材料の1つとすることとした。



【21年度の実践の様子】



【22年度 1組の実践の様子】



【22年度 1クラス目の実践の様子】



【22年度 2クラス目の実践の様子】

(3) 改良の経緯

ア 身近な距離でおみくじを楽しめるよう、机をどけて椅子だけとした。(1組実践)

→ スキンシップが一番図りやすい。しかし、元気な児童がおみくじをすぐにひっぱったりしてしまう。くすぐられるとき、全員が一度に近づきすぎて、抵抗を感じる児童もいた。

イ 少しの距離感を保ちながら、おみくじをひきやすいようにと2クラス目の実践の際は机を真ん中におくこととした。(3組実践)

→ 前回の実践に比べて、整然と順番を守りながらひきやすい。しかし、はずれをひいた児童をくすぐる際、向かい側に座った児童は、立って反対側に回り込まねばならず、机があることでくすぐりにくくなった。また、くすぐられる方は人が回り込んで立って近づいてくることがあって、多少の威圧感を感じる。

ウ くすぐり方の検討。前に1つ机があるので、はずれをひいた児童は、両手を前に出して、手や腕のみを3回くすぐられるようにした。これにより抵抗なくくすぐられるようになり、児童がもっとも楽しみやすい隊形が成立した。(2クラス目の実践)

→ 昨年度も含めて今回の形が一番よいと感じた。

F 「これは何か分かるかな」・・・「おみくじ」

F 「おみくじわかる。やったことのある人」

・・・「ある」「ない」の両方の声があがる。

「2番がでたら」「たとえば、自分の好きな【給食】を答えるんだよ」

「赤が出たら」「はずれ」だね。

「その時は、1・2・3と数えるあいだだけくすぐっていいですよ」

F 「1度先生がやってみます」と言ってくじをひき見本を見せる。

黒板で内容を確認する。はずれのときのくすぐり方の見本をみせる。

F 「それではやってみましょう」・・・と内容に入っていく。

○ 実施日 1組：6月14日(月)⑤ 3組：6月17日(木)②

2組：6月21日(月)⑤

○ おみくじの実践時間

1組：10分 2組：12分 3組：7分

3 振り返りの活動

3クラスとも、担任によって振り返り活動を実施した。

「楽しかったか」「またやりたいか」等いつも通りに聞いた後、個々に感想を発表してもらった。「おみくじをひくときにわくわくした」「はずれをひくかなって思ってた」「おみくじをひくのが久しぶりだったから嬉しかった」等、サイコロでなくおみくじという形で実施したことによる良さを実証する感想がみられた。

4 抽出児童の様子

A

最初は、静かに先生の説明を聞いている。テーブル椅子の向きを変えたときには、にこにこしてお友達をからかっている。くじ引きについては、順番を待つことができた。最初にひいたとき「私の好きな色は『オレンジ』です。理由は・・・」無言。でも、とても楽しそう。振り返り活動の場面でも手を挙げる。指名されて「楽しかった」と発言した。時々爪噛みはあったが、他の子の発表をだまって聞けた。

B

「着席してないよ」と担任の先生が一言伝えると、すぐに正しい姿勢になれる。おみくじの説明はしっかり聞く。1回目「ぼくの好きな動物はトラです」2回目「ぼくの好きな給食はラーメンです。とくにしょうゆ（笑い）」「ぼくの好きな遊びは、スーパーマリオギャラクシー、ぼく持っているもん」途中で椅子から転げ落ちたが友達の話も静かに聞いている。ただ、いつも顔のどこかをさわっている。振り返りの活動の時は友達の話はあまり聞いていないようであった。「はずれが1回も出なかった人！」のところで、手を挙げた。

C

姿勢は悪いが、担任の先生の話はきちんと聞いている。机をかえたとき、班の友達2人とすぐに会話を交わした。皆がおみくじをひいている間は、楽しそうにみんなと話したり笑ったりしている。友達にもいろいろと教えてあげている。自分におみくじが回ってきたら、少し照れながらもみんなに話せた。担任の先生に指名されて、楽しかったか聞かれると、「楽しかった」と言った。その後は、自分で手を挙げ「ドキドキした」「ハズレが出なくて楽しかった」などと言うことができた。それ以外は同じ班の仲の良い子と遊んでいた。

<実践例2・・・ジャンケン列車，猛獣狩り，○×ゲーム>

1 実施日時及び実施場所 平成22年6月24日（木） 体育館

2 参加者 1年児童全員，1年生担任団，介助員1名，教務主任
※ファシリテーター：1年担任

3 展開

※最初の集合は、各クラス男子2列，女子2列。

ア 整列及び今日の内容についての説明

「今日もゲームをやりますね」・・・喜ぶ。「わーい」

※児童の整列の様子についても触れた。

イ ジャンケン列車

「今日は曲をかけますので、曲が止まったら相手をみつけてジャンケンをします。勝った人は前に居て、負けた人は後ろにつきます」

※ 実際に一人前に出して、Fが具体的に全員の前で見本をやり方を示す。

「それでは、やります」と声をあげて出発。

※ 最初のみ曲が止まったとき、ジャンケンをするタイミングで迷う子も多かったが、2回目からはスムーズに行われた。ある程度の列の長さが生まれるまで継続し、終わる。「一番前に居る人だけ、立ってください」みんな拍手。

ウ 猛獣狩りにいこう

「次のゲームにいきます！みんな『猛獣狩り』ってゲーム知っている。やったことある」
・・・「知っている」「知らない」両方の声。

「猛獣狩りに行こうよ♪・・・やりだってもってるし♪」と歌い始め、槍や鉄砲のポーズをとる。「ここで先生が、『ライオン！』と言ったら4文字だから4人組をつくります。そして4人組ができた人から座ってください」それではいきます。

Fが歌いながら歩き始める「猛獣狩りに行こうよ」で、周りの子は先生についていく、すでにいい雰囲気。

「ゾウ」「ライオン」「マントヒヒ」「〇〇せんせい」（8文字）2人組はすぐにできるが、他の4文字・5文字については、できない児童もいた。8文字が終わり次のゲームに移った。

※ ここで、次のゲームに移るから、最初のクラス整列になるようにしてくださいとの指示を出した。

エ ○×ゲーム

「それでは、最後のゲームです。○×ゲームです。今から、8問問題を出します。その答えが、○だと思ったら□□先生の方に、×だと思ったら△△先生の方に寄ります。時間が来たらロープをひきますので、それからは移動ができません」

第1問「1組の先生は〇〇先生である」……と続いていく。

※ ルールについては、皆よく守っている。（ロープにさわる以外は）

オ 振り返り活動

○ 今日楽しかった人・・・・・・・・・・多数

○ またやりたい人・・・・・・・・・・多数

4 抽出児童の様子

A

ジャンケン列車・・最初に、同じクラスの子とジャンケンをして、後は、ともにつながっていく。

猛獣狩り・・・・・・・・ずっと上記と同じ子と手をつないで回っていて、〇〇さんが中心に人数作りをしたところに入っていった。

B

表情・・・・・・・・・・保育園から仲の良い友達と一緒にいる。分団の近い子やクラスの子と一緒に離れない。

ゲーム・・・・・・・・・・楽しくゲームに参加できた。猛獣狩りもすべて8人まで作ることができた。

C

ジャンケン列車・・前から4番目、楽しそうにつながっている。

猛獣狩り・・・・・・・・説明をしっかりと聞き、「2人組を作る」と言われたので目で合図し

て、〇〇さんとすぐに組んでいる。〇〇ちゃんと手をつないで移動クラス整列のときは、素早く移動。

<実践例3・・・1学期の振り返り、まとめ。>

- 1 実施日時及び実施場所 平成22年7月13日（火） 体育館
- 2 参加 1年児童全員，1年生担任団，介助員1名，教務主任
ファシリテーター：学年主任
- 3 展開

※最初の集合は、各クラス男子2列，女子2列。

ア 本日の活動内容の説明

T「今週木曜日には楽しいことがありますね」「かき氷」

T「そうだね，それは各クラスごとに行うけど，今日はこうやって全員揃って，1学期のことを振り返ったりします」

「元気よくあいさつをします」「お願いします」ととても元気がよい。

「まず，1学期のことを振り返って，それからゲームもやります」

T「あと何日で1学期はおわりますか」「5日」「すごいね，5日ってすぐに出たね」

T「4月6日入学式にみんなが入学していろいろなことがありました」

「4月から振り返って心に残ったことは何かな」・・・・・・勢いよく手が挙がる。

★ 抽出児童3名中で，2名が手を挙げた。

1 体育・・・・この答えは，その後も何人かが発表した。

2 図工 3 友達ができたこと 4 遠足 5 運動会

・・・・掃除，踊りなど，行事名や行事の一番面を表した言葉で意見が続いていく。

T「それでは，覚えていることは何かな」

○勉強，平仮名，ひき算，計算カード，平仮名カード等，学習の内容の回答が続いていく。

★ ここであらかじめ用意したカードの回答に導いていくため，意図的に学年主任が「先生が一番思い出深いのはさっきも話したかも知れないけど……」と付け加え，「にゅうがくしき」と示し，ポイントとなる出来事に目を向けさせていく。これは，みんなが一番好きな時間だよね，と言って「きゅうしょく」を示しながら進めていく。最終的にこれだけの言葉を，児童が座る前の，舞台壁面に貼ってつけた。

にゅうがくしき えんそく うんどうかい きゅうしょく
すなあそび あさがお ぷーる

T「いろいろなことがあったよね。〇〇先生に来てもらったりしながら，ゲームもたくさんやったよね。どんなゲームをやったか覚えている人」

「ジャンケン列車」

「猛獣狩りにいこうよ」

「お誕生日でつながるやつ」

→「バースデーチェーンね」



【ファシリテーターが1学期の出来事を示している場面】

「○×ゲーム」「あいさつジャンケン」

T「それでは、今からその中の『集合ゲーム』をやります。みんなが、振り返った行事の言葉の数であつまりますね」

T「最初は『プール』です」

※ 担任がピアノで校歌を伴奏し、伴奏が続いている間は歩いている。
ホイッスルが鳴ったら、文字の数のグループを作って座る。

「えんそく」（4人グループ） 「すなあそび」（5人グループ）

「きゅうしょく」（6人グループ）と進めた。

★ 抽出児 A, B, Cの3人ともとてもよい表情で、ゲームに参加している。Cのみ、若干特定の男の子という機会が多かったようだ。

T「今度は『あいさつじゃんけん』をやります」

「今日は、勝った人から『私が1学期に楽しかったことは、○○です』とさきほどみんなに思い出してもらったことなどを答えてくださいね」

「次に負けた人が、『私が1学期に楽しかったことは・・・』と答えてください」

「それから、後で教室に帰ってから、みんなに聞くけど、『何人の人とジャンケンをしたのか』、覚えておいてくださいね。時間は5分間です」

「はじめます『よーい・ピーッ』」

★ 抽出児 A, B, Cの3人とも先ほどと同様にとってもよい表情で移動している。硬さは全く感じられない。すっきりとこの学年集団に 安心感を抱いていることがわかる。



【集合ゲーム】



【あいさつジャンケン（3回目）】

T「最初のように並びます」

4 振り返り活動

(1) 体育館にて

T「最後のあいさつジャンけんは5分でした。少し聞いてみたいと思います」

「あいさつしたのは、『1人だったよ』という人・・・①」

「 〃 『2人だったよ』という人・・・ゼロ」

「あいさつしたのは、『3人だったよ』という人・・・②」

「 〃 『4人だったよ』という人・・・④」

「 〃 『10人以上だった』という人・たくさん手が挙がる」

※ この時、40人とか言う児童がいたので、「たくさんだったね」と言ってFが活動

をきって、終了とした。

(2) 教室にて

個人カードを記入 ①あいさつした人数

②すすんであいさつできたか

③感想記入 ★ 教室の反省は、別紙にて結果をまとめる。

3 その他の実践について

(1) 「1・2年生 なかよくしようかい」の実施について

ア 日時 平成22年4月27日(火) 1・2時間目

イ 目的

○ 2年生が1年生の世話をしながら、校内を探検することにより、1年生のスムーズな学校適応を促す。

○ 1・2年生のかかわりを深める。

ウ 活動の流れ

体育館集合(8:50)

開会式(8:55~)

探検出発(9:00)~探検終了(9:45)

閉会式(9:50~)

★ 閉会式でアサガオの種を2年生から1年生にプレゼントした。

エ 1年生の児童の様子

体の大きさもそんなに変わらない2年生に案内してもらえるとということで、安心して出発していく姿がみ

られた。全校に散らばった子どもたちには、1・2年生の担任団が補助に入り、とまどう児童はほとんどなかった。また、「がっこうたんけんチェックカード」を使い訪問した先で、サインをもらう活動を取り入れることで、一層の意欲を喚起した。

(2) 幼保小との連携

ア 保育園児の校内見学の会

本校に入学児童が多い、A保育園・B保育園の児童は全員が、スムーズな進学を促すために校内施設や1年生の活動の様子を見学に来ている。特に担任団の計らいで、1年生がお店屋さんを開いて、手作りの折り紙細工を渡す催しを行ったり、リコーダで楽曲演奏を披露したりする。また希望者があれば、その都度体験入学を実施してきた。特に平成22年度入学児童を持つ保護者の見学が多かった。



【体育館より出発】

1・2ねん がっこうたんけん チェックカード					
に し か ん					
たもくとき 1	6の1	6の2	6の3		た
しりょうしつ	4の1	4の2	4の3		さ
*					
2の1	いきいき	2の2	2の3		し
みなみかん					

【チェックカード】



【保育園児の校内見学の会】



【園児と1年生児童との対面】

イ 入学前の幼保小連絡会の実施（2月末）

毎年、2月末に入学前の園児の情報交換を行っている。22年度入学に向けて、6つの園に来校してもらった。1、2人程度の入学園については、教務主任が直接園を訪問するなどして情報を得ている。

ウ 入学後の幼保小連絡会の実施（6月末）

小学校に入学後、2か月経過した時点で、児童の生活ぶりや学校に慣れたどうか等の情報交換を行う。懇談会での保護者との面談を児童の学校への適応に生かしている。

4 結果と考察

(1) 様々なエクササイズの実践を通して

ア 幼稚園・保育園とのかかわりを考えたエクササイズを教育活動の中に積極的に取り入れ、一方で固定エクササイズを毎月1回位置づけるなど、計画的なグループ・アプローチを実践していくことで、新入生の学校への環境適応をスムーズに促すことができた。

イ 校内において、グループ・アプローチ実践を積極的に実践することにより、一人一人のファシリテーターとしての技能が向上し、より質の高いグループ・アプローチ実践を展開することが可能となった。

ウ 現職教育でグループ・アプローチについて研修を深めたり、公開授業でエクササイズを取り入れたりすることにより、グループ・アプローチについての理解が深まった。



(2) 抽出児童の変容を通して

ア グループ・アプローチの実践を経るごとに、入学当初から適応が心配された抽出児童の3人ともが楽しそうに過ごす姿や笑顔が増えてきた。グループ・アプローチは、環境適応を促す上で効果的であった。

イ 抽出児童に担任や指導者が上手に手を差し延べれば、それをきっかけに個人やグループと自然にかかわりを持つことができるようになる。

ウ あいさつじゃんけんは回数を重ねたからといって、大きな変化はみられなかった。1つはもって生まれた性格的なことが大きく影響していると思われる。また、常に学年全体で実施したので、人数が多すぎたことも影響しているかも知れない。

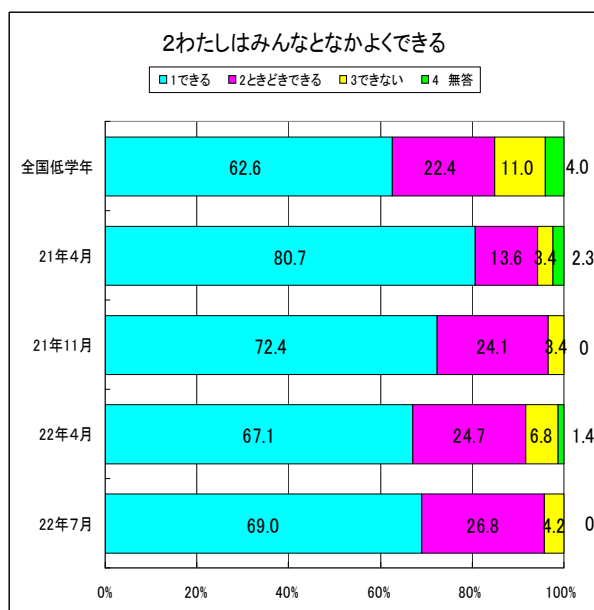
(3) 適応度調査の結果から

図1のとおり、「わたしはみんなとなかよくできる」という設問に対して、「できる」と回答した児童は、平成22年4月が調査をした4回の中では最も少なく、一方で「できない」と回答した児童は6.8%と最も多かった。園の情報どおり、これまでで一番心配と言われた1年生の実態を表しているのではと心配されたが、グループ・アプローチを繰り返し実践したことにより時々できると回答した児童は増え、「できない」と答えた児童は減った。この結果から児童相互間のかかわりが深まりつつあることを証明できた。

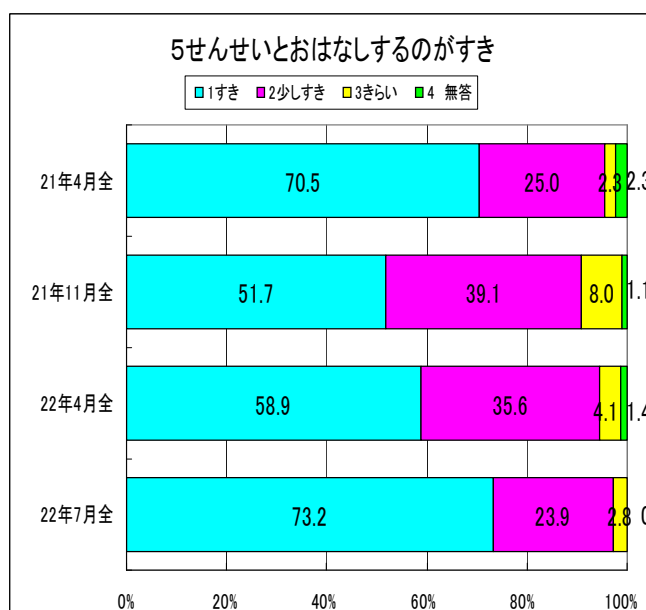
また、先生とのかかわりについても、図2のとおり、22年4月では「せんせいとおはなしするのがすき」の設問で「すき」と回答した児童は58.9%しかいなかったが、7月の調査では73.2%となり、約15%の増加がみられた。これは担任との関係が急に深まったことの証明となった。配慮が必要な児童が多いといわれた学年だけに、担任のかかわりが特に重要だったと考えられる。

【適応度調査結果】

【図1：わたしはみんなとなかよくできる】



【図2：せんせいとおはなしするのがすき】



5 今後の課題

- (1) グループ・アプローチ実践を繰り返す中で、児童はエクササイズの繰り返しよりも、新しいエクササイズに強い関心を示すことが分かった。特に、本実践では固定エクササイズとして「あいさつじゃんけん」を位置付けたが、3回目より飽きを感じる児童が出始めていた。ルールを徹底するには複数回実践も考えられるが、児童の様子に合わせてエクササイズを変更していく柔軟性が必要である。ふり返しカードでは、3回目の実践で、泣き顔にマークを塗ったのは2人に過ぎず、エクササイズとしては効果があるものの、開始時には、「えーっ、やりたくない」などの声も聞かれた。
- (2) グループ・アプローチ実践を参観するたびに、ファシリテーターの存在の大きさを痛感してきた。新入生の環境適応をよりスムーズに行っていくには、我々教師集団がファシリテーターとしての力量を向上させることが大切である。今後も現職教育等で取り上げ、一層研修を積み上げていかなければならない。